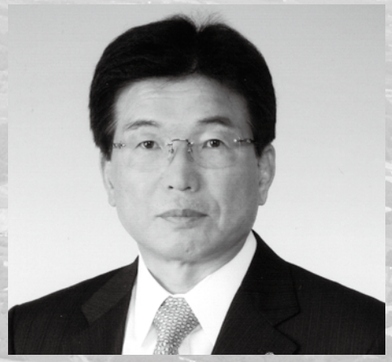

次代に誇れる
活気のある元気なまちづくりを

栗山町長　椿　原　紀　昭

新年、明けましておめでとうございます。

平成23年の輝かしい新春を、ご家族お揃いで健やかに迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年、皆様の温かいご支援のもと、引き続き町政をお預かりすることになりました。町民皆さんには、政策目標であります「思いやりの心がかよう、元気のでるまちづくり」実現のため、ご支援ご協力をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

景気の低迷や昨年7月の参議院議員選挙でねじれ国会を生み出すこととなり、混迷した状況が続いております。

また、世界に目を向けますと、世界で最大の人口を有する中国が経済で躍進し、世界の構図が変わろうとしており、国際的にも不透明な時代を迎えております。

昨年は、地球温暖化の影響と思われる記録的な猛暑が続き、史上最高の平均気温となり、道内の農業被害は５０３億円、町内では５億7千5百万円が見込まれております。

このような厳しい状況の中ではありますが、本町におきましては、町民皆さんからご意見をいただいた第5次総合計画後期実施計画を基本とし、一つひとつの施策を心新たに展開してまいります。これまで、町民皆さんとの対話による合意形成を基本とし、町民、議会、行政が協調・協働し、持続可能な地域の自立経営を目指し、自治区構想、１００人委員会、まちづくり懇談会など、積極的に町民の皆さんが地域経営に参画できるよう、まちづくりを進めてまいりました。本年は、私の公約であります自治基本条例の制定に向け「町民会議」を設置し、町政への町民参加のあり方についてしっかりと議論していただき、真の協働のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

本年4月より本格稼働する炭化処理施設の円滑な処理を進めるにあたり、環境にやさしいまちづくりため「その他ごみ」のさらなる分別について町民の皆さんにご協力をお願いします。また、産業を基盤とする地域資源を活かした個性的な栗山ブランドづくりとし、昨年4月、「北のくりやま栗づくり協議会」が発足し、「栗の活用事業」が本格的にスタートしました。美しい景観と環境に配慮した「エコビレッジ湯地の丘」ではモデル住宅を活用した短期移住体験として、昨年は大阪、兵庫、東京より12組24人が体験移住をしていただきました。一方、「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」を活用し、町内外の多くの皆さんに栗山らしい自然環境教育の場を提供してまいります。

中央集権から地域主権への転換など、日本の政治が大きく変わりつつある今日、本町は依然として厳しい財政状況にありますが、自主自立に向けた足腰の強いまちづくりが求められており、第5次総合計画や行財政改革プラン「がんばる栗山プラン21」に基づき、町民の皆様から貴重なご意見を基に財政の健全化に向け、引き続き取り組んでまいります。

町民と行政がそれぞれの「知恵」と「力」を可能な限り結集させ「ふるさとは栗山です」を合言葉として、次代に誇れる活気のある元気なまちづくりを進めていきたいと強く考えております。

どうか町民の皆様には、さらなるご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、本年が明るく健やかな年でありますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

町民に期待・信頼され
存在感のある豊かな議会であるために

栗山町議会議長　橋　場　利　勝

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成23年の幕開けに当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を顧みますと、本町の基幹産業であります農業においては、農家戸数の減少や農業者の高齢化、担い手の不足など、地域農業の構造変化に加え、農地制度改革や食料・農業・農村基本計画の見直し、戸別所得補償制度の導入など、農業政策の大転換期を迎えております。

特に、ＴＰＰ（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加については、本町の場合、主要農畜産品7品目中、6品目が対象となり、総生産額の８割強にも及ぶ壊滅的な打撃を受けるとされています。議会としても「ＴＰＰ交渉への参加を行わないよう求める意見書」を全会一致で可決し、関係省庁へ提出したところです。

北海道経済の現状を見ますと、欧米諸国の景気低迷に伴い、景気回復の足取りは鈍く、雇用環境、所得環境とも先行き不透明な状況が続いています。エコ減税やエコポイントなど、消費喚起を企図した政策効果や子ども手当の支給などの景気押し上げ効果が期待されましたが公共投資の減少などにより回復までには至りませんでした。商工業と一次産業の連携により、本町の強みでもある「食」や「自然環境」などの付加価値をより高め、新たな需要の創設や就労支援、雇用の確保など議会としても優先すべき政策の一つとして取り組んでまいります。

まちづくりの指針でもあります第5次総合計画につきましては、中間年を迎えることから、事業の進捗状況などを踏まえ、基本計画の見直しを行いました。併せて、総合計画の策定、大きな変更時には住民の意思を反映させることなど町民参加とそのプロセスを条例化できないか議会として検討してまいりました。

しかし、結果として住民自治の確立に向け、自治基本条例を策定する関係からこの条例案については行政側へ委ねる形としたところです。

公共事業の選択は今までは国の補助率のよい事業を選択してきましたが、これからは地域の必要性で決める時代です。ただし、その必要性を首長や議会の都合で決めるのでは意味がありません。地域主権は、首長や議会の権限を大きくすることではなく、住民の権限を大きくすることですから住民の意思に基づいて決めてこそ意味があります。

首長と議会の対立がリコール運動に発展した鹿児島県阿久根市や名古屋市が注目を集めました。右肩上がりの時代は終わり、住民負担の伴う行財政改革の提案が増え、行政と対立する機会が増えつつあります。二元代表制の下では首長と議員はそれぞれ異なる選挙で選ばれますので意見の隔たりは当然、起こりえます。しかし、その話し合いの中に民意を反映し、自らの議会運営の透明性と説明責任、そして徹底した情報開示を果たすことが重要です。

本年は、統一地方選挙が実施されます。栗山町議会基本条例の中には4年ごとの一般選挙によって議員が入れ替わる任期開始時点において、この条例の目的が達成されているかを検討することを規定しています。これまでも、3度の条例改正や議会モニターによる提案を取り入れるなど常にその時代にあった議会が求められてきました。今後とも、町民に期待・信頼され、存在感のある豊かな議会であるために、更なる議会改革・活性化に努めてまいります。

年頭に当たり、この一年が町民の皆様にとって素晴らしい年でありますよう心からお祈りを申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

本年もよろしくお願いします

■議会
- 議長　橋場利勝
- 副議長　小寺　進
- 議員　蛇谷富士男
- 重山雅世
- 楢崎忠彦
- 山本修司
- 置田武司
- 桂　一照
- 八木橋義則
- 伊達佐重
- 鵜川和彦
- 本田　論
- 大平逸男

■農業委員会
- 会長　川畑典雄
- 同代理　中川政行

■監査委員
- 谷田進太郎
- 本田　論

■教育委員会
- 委員長　湯地定暁
- 教育長　鈴木紀元

■選挙管理委員会
- 委員長　村上　哲
- 同代理　砂田正樹

■公平委員会
- 委員　志摩　隆
- 佐藤倶子
- 岩部　洋

■固定資産評価審査委員会
- 委員長　岡嶋克明
- 同代理　道順武雄

■国民健康保険運営協議会
- 会長　吉田輝雄
- 同代理　丸山紘司

■都市計画審議会
- 会長　村上　哲
- 副会長　小寺　進

■社会教育委員
- 委員長　三田源幸
- 副委員長　小川真寿美
- 副委員長　永池英彦

■体育指導委員
- 委員長　岡山典弘
- 副委員長　永池英彦

広がる農業・農村体験
グリーン・ツーリズム

グリーン・ツーリズムとは…
農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ
滞在型の余暇活動です。
栗山町グリーン・ツーリズム推進協議会では
グリーン・ツーリズムのさらなる推進に取り組むべく
平成19年度から、農業・農村体験の受入れをスタートさせました。
この4年間、栗山町を訪れる人たちに
農業の大切さを楽しく知ってもらうことはもちろん
受け入れる農家さんも〝楽しめる〟仕組みを模索しながら
一歩ずつ前に進んでいます。

農業・農村体験とは？

農家の暮らしを体験してみることです。栗山町の場合、5時間程度の半日体験（1食付き）、9時間程度の1日体験（2食付き）、そして宿泊体験のコースがあります。宿泊体験のおおまかな流れは、対面式、初日の農業体験、夕食、宿泊、朝食、翌日の農業体験、お別れ式となります。農作業は、季節や天候、受け入れする農家によって違いはありますが、野菜の収穫・袋詰め、ネギの皮むき・結束・箱詰め、畑の草取りやハウスの片づけなどを行います。

これまでの取り組み

平成19年に11戸の農家数で始まった農業・農村体験。平成20年からは46戸、現在は50戸の農家が受入れをしています。受入れる子どもたちは、修学旅行で来る札幌圏の中学生や大阪や兵庫といった関西圏の高校生が中心です。

受入れ人数は、平成19年には52人だったものが、平成20年は212人、平成21年からは400人前後に増えてきています。2年続けて栗山を訪問する高校も複数校あります。

基本はふれあい！お互い楽しむ

栗山町の農業・農村体験の基本は〝ふれあう〟こと。そして、お互いが〝楽しむ〟ことです。栗山の人たちによる、栗山の人たちのためのツーリズムであり、農村で休暇を過ごす人たちが栗山色を強く感じることができるツーリズムを目指しています。

農業・農村体験は普段の生活を体験

栗山町の農業・農村体験の考え方は〝特別なおもてなし〟しないことをルールとしています。普段、自分たちが食べている料理を一緒に調理することや、その季節や天候だからできる農作業を体験しています。〝特別なおもてなし〟をしない代わりにコミュニケーションを多くとるように心がけています。

栗山らしい農業・農村体験へ

栗山町という地域で長年農業を営んできた農家との〝ふれあい〟の中から農業とともに地域の歴史を刻んできた人、自然、文化、産業とつながりをもってもらうことも体験のひとつです。

受入れ農家の中には、農業が営まれている栗山町を知ってもらおうと町内を案内してくれる農家さんがいます。農業を切り口として、他の地域資源とのつながりを感じられる〝栗山らしい〟農業・農村体験に向けて一歩ずつ前進しています。

子どもたちはこんなに変わる

見比べてみてください4枚の写真…。対面式と翌日のお別れ式の写真です。たった一日、農業・農村体験をしただけで、子どもたちの表情は驚く程の変わりようです。農家の人たちのとコミュニケーションで一体何があったのか…。体験しなければわからない何かがあるようです。あるがままの大地と澄みきった空気、かざらない受け入れ農家との対話。すべてが子どもたちの心を揺さぶったのでしょう。

▲今にも泣き出しそうな不安な顔つきが…↓

◀ こうなります！

▲そして涙し…

▲お別れ式では…笑顔に変わり

子どもたちや親御さんからの手紙

栗山で農業・農村体験をした子どもたちや親御さんからの手紙を、ここで紹介します。

◇　◇　◇

栗山のおじいちゃんおばあちゃんへ

3日間、本当にお世話になりました。おいしいものをたくさん食べさせてもらって、色んなものを見て、すっごく楽しい3日間でした。あんまりお手伝いできなくてごめんなさい。今度は神奈川に来てね！鎌倉見に行きましょう。おじいちゃんおばあちゃんも忙しいのにとてもよくしてくれて、本当のおじいちゃんおばあちゃんみたいでした。私もおばあちゃんみたいな〝おばあちゃん〟になりたいです。いただいた野菜、家族で大事に食べます。みんな絶対喜びます。ここであったこといっぱい自慢したいと思います。修学旅行で栗山に泊まれてよかったです。ありがとうございました。大好き。

◇　◇　◇

栗山のおじいちゃんおばあちゃん、お元気ですか。こちらも少しずつ寒くなってきましたが、雪の北海道を先に体験しているので他のみんなより落ちついています。いただいたたくさんのじゃがいもや玉ねぎに父も母も喜んで、みんなで大事に食べています。今度、母の実家の和歌山から、みかんを送ります。みんなで食べてください。旅行中、栗山で過ごした3日間が一番楽しかったです。またいつか会えたらいいなあ…。ずっと元気で長生きしてくださいね。

◇　◇　◇

このたびは子どもたちを温かく迎えてくださり大変お世話になりました。たくさんの良い思い出を栗山のおじいちゃんおばあちゃんが作ってくださったと嬉しい笑顔で帰ってきました。北海道が大好きになったそうです。またたくさんの野菜も送ってくださりありがとうございました。美味しくいただいております。私の実家は和歌山にあるのですが、和歌山のみかんを送らせていただきます。これから寒さが厳しくなりますがお体に気をつけてくださいね。

受け入れる農家も変われる

先日、美唄市で空知管内の農業・農村体験受入れ団体の研修会が開催され、栗山町からは野原信子（富士）さんがパネラーとして参加しました。

野原さんは、農業・農村体験を受け入れるのは主に女性が主力です。夫は子どもたちが来ても、恥ずかしがって何もしてくれない（手が出せない？）と話し、会場の笑いと共感を誘っていました。夫は、子どもたちとの別れの日、記念写真を一緒に撮るよ！と引っ張り出され、照れながらも出てくる。最後の別れの時も、家の陰で手を振っているような感じです。しかし、何度も子どもたちを受け入れていると、今回来てくれた子どもたちのこと、次の農業体験のこと、夫婦の会話も、今までよりも多くなっていると楽しそうに話してくれました。

都市と農村をつなぐかけ橋

栗山町グリーン・ツーリズム推進協議会
代表　渕野　巌さん

▲農業・農村体験の大切さを語る渕野さん

子どもたちは、理屈抜きの自然に触れることで変わります。自分たちが家業としてやっていることが、都市生活者にとっては大切な場であり、自分たちが農村という〝感動の山〟に生活していることを逆に気づかされます。子どもを感動させるだけでなく、自分たちにも新鮮な感動を与えてもらえることが農業・農村体験の良さかもしれません。かつて来た子どもたちの顔が、今でも思い浮かぶのはとても不思議なことです。

いつも体験を終えお別れするときに、子どもたちへ「今日、一緒に生活した農家のお父さんお母さんは、北海道の家族だと思って、大きくなったらまた遊びに来てください」と伝えています。短い時間の中で農業について十分に伝えきれるわけではありませんが、感受性の豊かな子どもたちはいろいろな気づきを得てると思います。特に命の源である「食」のバックグラウンド〝農業の現場〟を体験できたことは、生活者と生産者の距離を近づける大切な〝出会い〟となっています。

農業・農村体験は、自分たちの農業を見つめ直すことにもつながり、自然と農産物への取り組み方も変わってきているように自分では感じています。

この感じを他の農家の皆さんにも体験してもらいたいです。

農業体験を希望される農家さんへ

栗山町グリーン・ツーリズム推進協議会では、農業・農村体験の受入れに参加いただける農家さんを募集しています。

ご紹介のとおり、主に修学旅行生などの子どもたちが中心で、5月から10月に受入れを行っています。農家さんの都合を調整しながら、受入れを無理なく継続できる方法で運営しています。

栗山には地理的なメリットもあり農業・農村体験のニーズは高まっていますが、受入れ先が不足しています。興味のある方は、事務局までお問合わせください。お待ちしています。

◇栗山町グリーン・ツーリズム推進協議会
事務局（町産業振興課）
☎㉒1111（内213）